



図書館 だより

図書館 ☎69・3706

今回は、図書館で研修をされた塩津小学校の宮田先生(写真左)、西浦中学校の小田先生(写真右)に本にまつわるお話をうかがいました。



—図書館は昔からよく利用していましたか？

小田: はい。児童室で絵本を借りたり、学生のころはよく勉強をしに行きました。学習室の集中しやすい雰囲気が好きで。教員になってからは、授業の資料が欲しい時に調べに行ったり。結婚して子どもが生まれたら、またわが子の絵本を見るって感じで。ずっと図書館にはお世話になっています。



宮田: 私も母とよく児童室に行った覚えがあります。学生のころは宿題をしに行ったりとか。教員試験の勉強をする時にも利用していました。家では勉強なんてできないから、集中するには、って感じで。

—好きなジャンル、好きな作家さんは？

小田: 星新一さんが好きでした。あの『ショートショート』の短い話の中にいろんな非現実的な世界があって。中学の教科書に載ってたのがすごく面白くて、図書館で探した記憶がありますね。全部読んでやろうって。



『うらめしや』

宮田: 三田村信行さんの『ウルフ探偵』シリーズがすごく好きでした。探偵事務所のウルフ探偵のところ不思議な事件の依頼が来て解決していく。小学生のころにはまって、何回も借りた覚えがあります。



『ウルフ探偵とぬすまれたタイムマシン事件』

楽しいお話をありがとうございました。

「ナマコ」について

■ナマコは何モノ？

出張水族館で、子どもたちに生き物に触ってもらおうのですが、一番人気があるのはサメでもカニでもなく「ナマコ」です。あの茶色や黒のヌメヌメした細長い体は、見た目は気持ちが悪いです。触ってみるとなんだか妙に気持ちが良いので、ずっと持っていたくなります。

ナマコはあれでもウニやヒトデの仲間です。世界に千200種類ほ

ど、日本にも200種類もいるそうです。食べられるのはそのうち30種類。浅い海にも深海にも住んでいます。海底に転がっている何も考えていない物体と違って、いろいろな種類があります。

■必殺サポニン

先日、三重県の水族館へ生き物をもらいに行きました。先方が大きなナマコをたくさんくれるといので、楽しみに網ですくって、ホイホイとトラックのタンクに放りこんだのですが、どうやらそれでビックリしたナマコたちが輸送

タンクの中で「毒」を吐いて、一緒に入っていた魚たちが、アツという間に全員ひっくり返ってしまいました。ナマコは毒を持っているのです。毒は「サポニン」という毒で人間でも多く摂ると嘔吐などが起こります。

■ナマコの人生

ナマコは、実は生まれた時はあの、ゴロリンとした太い物体ではないのです。生まれたてのナマコはプランクトン(幼生)で、海の下でだらしなく転がっておらず海を漂っています。約1カ月で、小

さなおなじみのナマコの形になります。オスとメスの区別があり、春から夏に2千万個ほど卵を産むそうです。気になるのは、ナマコは海の下で孤独に転がって何を考えているのか。喜びや悲しみはあるのか。という問題ですが、調べてみると何も考えていないようです。というのはナマコには脳がない。心臓もなければ、目や鼻や耳もないのです。それでも口と肛門はちゃんとあって、砂の中をモゾモゾやっております。危険が迫ると毒も出します。ナマコの人生は、果たして面白いのでしょうか。



水族館



学芸員 小林龍二

竹島水族館 ☎68・2059